

2017年（平成29年） 6月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/25～5/31のNYMEX・WTIは48.32～49.80ドルで推移、50ドル台を割り込んだ。

6月1日は、三連休で一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、最新週の原油在庫が前週比840万バレル減と市場予想(同250万バレル)を大幅に上回る8週連続の減少を示したことから買いが入ったものの、ガソリン在庫の減少が予想を大幅に下回り、中間留分在庫も予想に反し増加したことから、買いを圧迫、ロイターがリビア・ナイジェリアを中心に5月のOPEC生産量の増加を報じたこともあって、小幅な上昇に止まった。7月限の終値は前日比0.04ドル高の48.36ドルだった。

週末2日は、前日のトランプ大統領のバリ協定離脱表明を受け、シェールオイル増産の追い風になるとの見方が広がり、ベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が733基(前週比11基増、20週連続増加、2016年4月以来の高水準)との発表もあって、反落した。7月限の終値は前日比0.70ドル安の47.66ドルだった。

週明け5日は、サウジ・エジプト等アラブ4カ国が、過激派組織を支援しているとして、親イラン色の強いカタールとの国交断絶を発表、OPEC内の対立が激化するとの見方が広がり続落した。7月限の終値は前週末比0.26ドル安の47.40ドルだった。

6日は、ドル安・ユーロ高の進行による原油先物の割安感、テクニカルな要因による買い戻し等により、3営業日振りに反発した。カタールとアラブ4カ国間との調停を行っているクウェートのマルズーキ石油相が、カタールは引き続き協調減産に取り組むと発言したことも、価格を支えた。7月限の終

値は前日比0.79ドル高の48.19ドルだった。

7日は、米国の原油・石油製品在庫週報で、いずれも市場予想を上回る積み増しがあったことから、大幅反落した。7月限の終値は前日比2.47ドル安の45.72ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週49.90～53.10ドルで50ドル台を挟み推移した。6月1日は49.90ドル、2日は48.70ドル、5日は49.10ドル、6日は48.10ドル、7日は48.30ドルで推移した。

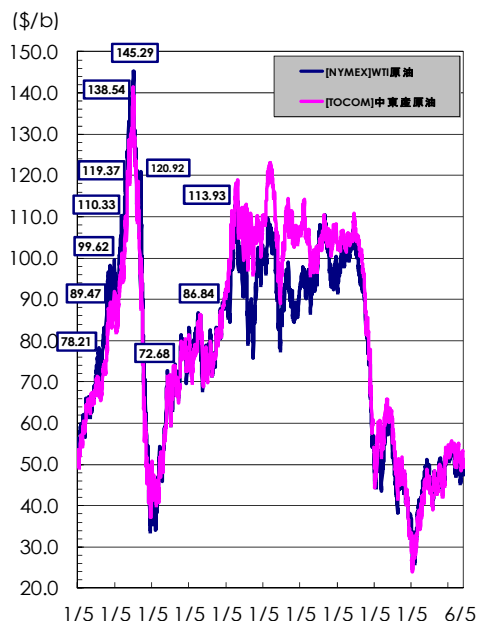
為替は、前週110.96～111.79円の範囲で推移した。6月1日は110.97円、2日は111.63円、5日は110.49円、6日は110.18円、7日は109.53円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は、37,902円/klとなり、前旬を538円上回った。ドル建てでは54.07ドルで前旬比0.12ドル安。為替レートは1ドル/111.44円。

主要元売会社の6月第2週に適用する卸価格は、ガソリンが1.0円の値下げと0.5円の値上げに、中間留分は据え置きから1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートもやや円安で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月5日時点の小売価格は、ガソリンが横ばいの131.7円、軽油も横ばいの110.8円、灯油は0.1円値下がりの76.8円だった。ガソリン、軽油は7週振りに値下がり止まり、灯油は7週連続の値下がりとなった。この週(6月第1週)の原油コストはやや値上がりし、元売の卸価格は据え置きから1.5円の値上げだった。

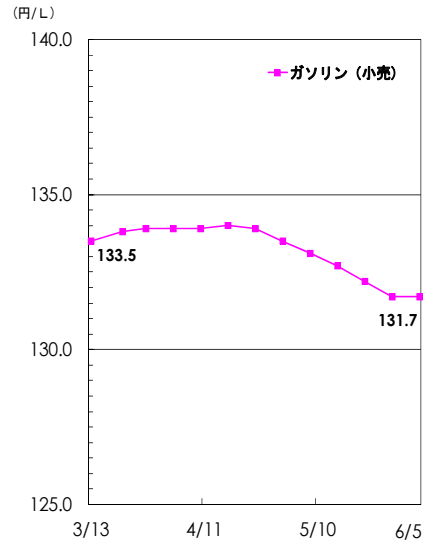
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/28 ~ 6/3	3,060 ▼ -109	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.1 ▼ -2.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/3	13,731 ▲ 1,030	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	6/5	49.46 ▼ -1.72	▲ 3.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	6/5	47.40 ▼ -2.26	▼ -2.3
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	5月中旬	54.07 ▼ -0.12	▲ 13.39
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	37,902 ▲ 538	▲ 10,028
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.44 ▼ -1.83	▼ -2.52
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/5	111.49 ▲ 0.85	▼ -3.94



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/28 ~ 6/3	1,119 ▲ 77	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	934 ▼ -80	▼ -	
	輸出	"	97 ▲ 76	▲ -	
	在庫	6/3	1,984 ▲ 88	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/30 ~ 6/5	49.7 ▲ 1.2	▲ 4.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/30 ~ 6/5	49.8 ▼ -0.7	▲ 3.7
		(TOCOM/中部)	6/5	48.3 ▼ -0.9	▲ 3.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/5	131.7 ➡ 0.0	▲ 9.2	

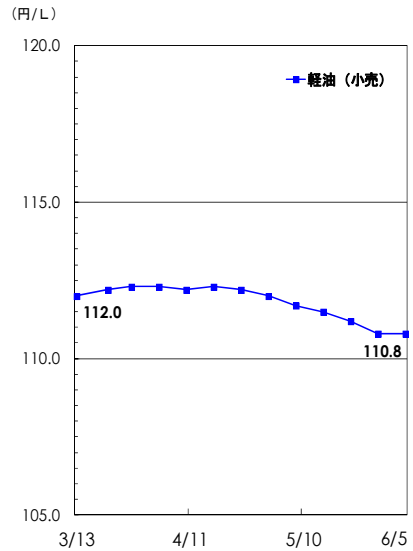
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

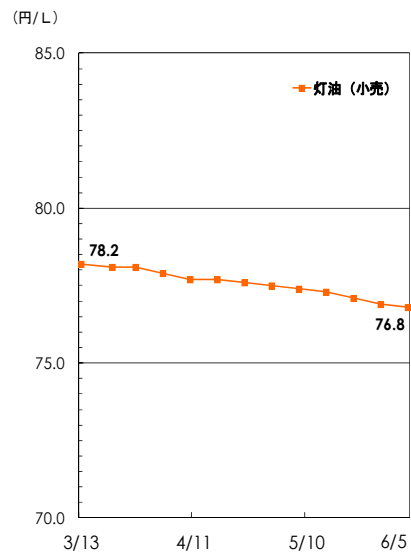
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/28 ~ 6/3	735 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	550 ▼ -94	▼ -	
	輸出	"	189 ▲ 51	▼ -	
	在庫	6/3	1,578 ▼ -3	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/30 ~ 6/5	48.4 ▲ 0.7	▲ 5.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/30 ~ 6/5	48.0 ➡ 0.0	▲ 6.4
		(TOCOM/中部)	6/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/5	110.8 ➡ 0.0	▲ 8.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/28 ~ 6/3	165 ▼ -62	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	130 ▼ -30	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/3	1,350 ▲ 36	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/30 ~ 6/5	47.5 ▲ 0.4	▲ 6.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/30 ~ 6/5	45.6 ▼ -1.6	▲ 4.1
		(TOCOM/中部)	6/5	45.5 ▼ -2.0	▲ 5.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/5	76.8 ▼ -0.1	▲ 13.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月7日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が、最新週の原油在庫が前週比330万バレル増加と市場予想(同350万バレル減)に反して、9週振りに増加を示したこと、ガソリンと中間留分の在庫も予想に反し大幅に増加したことから、売り一色の展開となり、大幅反落した。前日、EIAが発表した短期見通しで、米国の2017年、18年の産油量を上方修正したことも供給過剰感を増幅した。7日、イランで発生した「イスラム国」によると見られる連続爆破は、大きな材料とはならなかった模様。7月限の終値は前週末比2.47ドル安の45.72ドル、8月限の終値は前

週末比2.36ドル安の45.98ドルだった。

EIAによると、6月5日時点のガソリンの小売価格は前週比0.8セント値上がりの1ガロン2.414ドル(71.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値下がりの2.564ドル(75.4円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは2週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月28日～6月3日に休止したトッパー能力は62.0万バレル/日で、前週に対して0.3万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は306.0万klと、前週に比べ10.9万kl減少。前年に対しては17.2万klの減少。トッパー稼働率は78.1%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては2.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.4%増、ジェット/13.1%増、灯油/27.3%減、軽油/0.5%減、A重油/1.4%減、C重油/21.0%減。今週のC重油の輸入は8.3万kl(前週比7.9万kl増)。軽油の輸出は18.9万kl(前週比5.1万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではC重油のみが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではすべての油種で減少した。ガソリンの出荷は93.4万kl(対前週7.9%減)と3週振りに前週比で減少、2週連続で前年比で減少となり、2週振りで100万klを下回った。

ジェット8.6万kl(対前週47.2%減)、灯油13.0万kl(対前週18.8%減)、軽油55.0万kl(対前週14.6%減)、A重油17.0万kl(対前週17.8%減)、C重油18.6

万kl(対前週15.7%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/28 ~ 6/3)	前週 (5/21 ~ 5/27)	前週比	
ガソリン	934	1,014	▼ -80	(-8%)
ジェット燃料	86	164	▼ -78	(-48%)
灯油	130	160	▼ -30	(-19%)
軽油	550	644	▼ -94	(-15%)
A重油	170	207	▼ -37	(-18%)
C重油	186	161	▲ 25	(16%)
合計	2,056	2,350	▼ -294	(-13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月3日時点の在庫は、ジェット、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、ジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは198.4万kl、前週差8.8万kl増。前年に対しては15.5万kl多い。

灯油は135.0万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては26.3万kl少ない。

軽油は157.8万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては13.3万kl多い。

A重油は81.7万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては0.5万kl少ない。

C重油は207.6万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては1.8万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (6/3)	前週 (5/27)	前週比	
ガソリン	1,984	1,896	▲ 88	(5%)
ジェット燃料	1,017	1,086	▼ -69	(-6%)
灯油	1,350	1,314	▲ 36	(3%)
軽油	1,578	1,581	▼ -3	(-0%)
A重油	817	801	▲ 16	(2%)
C重油	2,076	2,072	▲ 4	(0%)
合計	8,822	8,750	▲ 72	(0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月30日から6月5日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれをやや相殺したが、原油コストはわずかな値上がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン102～103円台で値上がり、軽油47～48円台でやや軟化、灯油47円台でほぼ横ばいで推移した。海上スポット価格は、ガソリン105円台で堅調、軽油47～48円台でやや軟化、灯油45～46円台でやや軟化して推移した。先物価格は、ガソリン102～104円台で横ばい、軽油48円台で横ばい、灯油44～46円台で値下がりした。

元売の卸価格は、ガソリンは1.0円の値下げと0.5円の値

上げに分かれ、灯油と軽油は据え置きと1.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストはやや値上がりし、製品スポット市況は、陸上の全油種と海上のガソリン値上がりし、海上の軽油と灯油と先物価格が値下がりした。週間のガソリン販売量は、3週振りで減少し、2週振りに100万klを割り込んだ。

6月第2週(6月8日～14日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月30日～6月5日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.2円の値上がり、軽油は0.7円の値上がり、灯油は0.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.3円の値上がり、軽油は0.7円の値下がり、灯油は0.7円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は1.6円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替もやや円高で、原油コストは値下がりとなった。

6月第2週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下げと0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/30～6/5)	前週 (5/23～5/29)	前週比
スポット価格	レギュラー	49.7	48.5	▲ 1.2
	灯油	47.5	47.1	▲ 0.4
	軽油	48.4	47.7	▲ 0.7
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (5/30～6/5)	前週 (5/23～5/29)	前週比
先物価格	レギュラー	49.8	50.5	▼ -0.7
	灯油	45.6	47.2	▼ -1.6
	軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/30～6/5実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.2	▼ -0.7	▲ 0.3
灯油	▲ 0.4	▼ -1.6	▼ -0.6
軽油	▲ 0.7	▶ 0.0	▲ 0.3
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの131.7円、軽油も前週比横ばいの110.8円、灯油は前週比0.1円値下がりの76.8円だった。ガソリン、軽油は7週振りに値下がり止まり、灯油は7週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは18府県、横ばいは7県、値下がり22都道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の125.9円(前週比横ばい)、次が徳島県の126.9円(同0.3円安)だった。最高値は長崎県の140.3円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比1.7円高の神奈川県(130.1円)、最も値下がりした県は同0.8円安の京都府(132.8円)と長野県

(134.3円)、横ばいが長崎県、鹿児島県・高知県・滋賀県・宮崎県・岩手県・岡山県の7県だった。

原油コストはわずかに値上がりし、元売りの卸価格も据え置きから1.5円の値上げだったが、7週振りでガソリン小売価格は値下がり止まりにとどまった。今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高となって、原油コストは値下がりしたが、元売会社の卸価格は、1.0円の値下げと0.5円の値上げに分かれた。先週の卸価格引き上げの転嫁のタイムラグもあり、次週(6月12日)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(資工斤公表)		(単位: 円/%)				
[週動向]		今週 (6/5)	前週 (5/29)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	131.7	131.7	▶ 0.0	08/8/4	185.1
	灯油	76.8	76.9	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	110.8	110.8	▶ 0.0	08/8/4	167.4

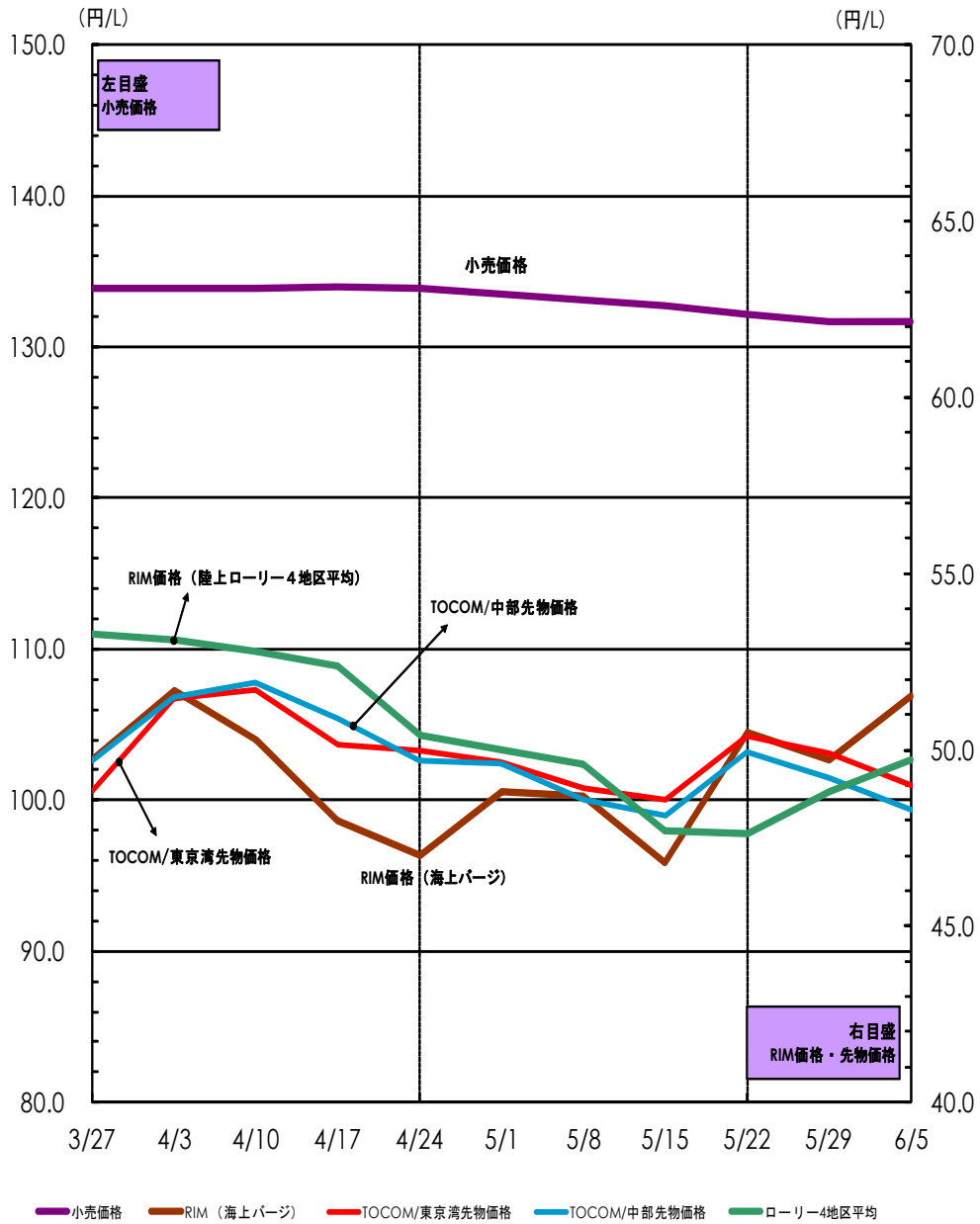
※現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/3/27 ~ 2017/6/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第10号)の公表は、6/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。